

生まれて来てよかった(マルコ 14:17-21)

こんなに惨めな思いをするなら生まれなかった方がよかったという人がいます。こんなにつらいのだったら、生きることがこんなに苦だったら生まれなかった方がよかったのではないかと思う人もいます。望まれていない出生で悩む人もいます。親から、また誰かに捨てられた悲しい経験を持つ人もいます。また、他の人と違って大きな障害を抱えて生まれてきたり、途中で障害を抱えるようになって不便な人生を送っている人がそのように思うときがあるでしょう。また、全く望んでいないのに病にかかり、大変なつらい思いをしている人もいます。他にもあまりにも理不尽なことが多くて苦しんでいる人もいます。それで結局、生まれなかった方がよかったのではないかと思っている人は、毎日、日々生きることが曇りだらけの人生になります。面白いこともないし、希望なども見ることができないし、人によってはもう生きることは嫌だと思い、極端な選択をする場合もあります。しかし、クリスチャンの私たちは、そういう人々の気持ちは充分理解できますが、冷静にクリスチャンとして本当にそのような惨めな思い、つらい経験、理不尽なことなどが、生まれなかった方がよかったと言えるような理由になれるものなのかと問いかけないといけません。それで何が誰が生まれなかった方がよかった人間なのか。生まれてよかったと叫ぶことができる人は誰なのか。自分はどちらなのかということを経験を通して確認していきたいと思います。確かに今日の聖書を見ますと、イエス様がおっしゃいました。生まれなかった方がよかったのですよと、そういう人間がいるのはいます。しかし、普通に多くの人が思ってるような人間なののでしょうか。そのような理由なののでしょうか。ということを経験を通して確認していきたいと思います。

1. 人間の真の問題がわかれば、生まれて来てよかったと言える。

今日の聖書を通して、まず第一に、人間の真の問題が何かわかれば、自分は生まれて来てよかったと言えるようになります。

今まであらゆる理由で生まれなかった方がよいと普通に思うしかなかった人間でも、今まで自分でわかっていなかった人間の本当の問題が何かわかれば、それがガラリと変わって「ああ違うな。生まれてよかった」と言えるようになります。だから、人間の本当の問題が何かわかることは、人生において何よりも大切なテーマなのです。何が人間の本当の問題なののでしょうか。精神的な問題なのでしょうか。貧乏なの問題なののでしょうか。人間の本当の問題は、人間は他の獣と違って、たましいを持っている霊的な存在です。

1) 霊は死んでしまい(エペソ 2:1)神を離れ、サタンの奴隷となり、地獄の運命にとらわれ
なのに、そのたましいが死んでしまいました。エペソ 2:1 には「自分の背きと罪の中に死んでいた者」であって、生きているのに、呼吸をしているのに死んだと聖書は宣言しています。たましいが霊が死んでしまいました。たましいが死んだということは、人間は唯一神様と一緒にあって神様と交わることができる神の豊かな祝福を頂いてこの世を治めることができる存在でした。それを神のかたちと言います。聖書の他には教えていないので、世の中で人間について教わったことは忘れてください。なのに人間がその神様を離れることになって、その瞬間、人のたましいは死んだ状態になりました。たましいが死んだということは、神様を離れることであり、その結果、悪魔サタンの奴隷になってしまい、自分では抜け出せない、どうにもならない地獄の運命に囚われることになったということが人の本当の問題です。さまざまな問題がありますが、そのすべての問題の一番根っこの方に根底の方に根本の方にはこの問題があるわけです。だから、これを霊的問題、根本問題というわけです。たましいが死んでしまったと。希望などは持てません。いくらもがいても解決できない問題が人の本当の問題なのです。

2) 世の流れに従い(エペソ 2:2)宗教や偶像崇拜、シャーマニズム、イデオロギー

だから、人は自然に当たり前に拒否することはできず、この悪魔サタンが作り上げた世の流れというものがありますが、その世の流れに従うしかない存在です。悪魔サタンが作り上げ、人が滅びるしかないように仕掛けたものが何かというと宗教なのです。宗教にはまるしかないし、偶像に拝むしかないし、シャーマニズム、イデオロギー

マニズムなどに頼るしかないし、イデオロギーに染まるようになってしまいます。そうしようとしてそうなるわけでもないし、私はそうならないと覚悟して、それを拒否できるわけではありません。根本的にたましいが死んでしまったがゆえに、当たり前前に自然に宗教にのめり込んで偶像を拝むようになり、シャーマニズムに頼り、イデオロギーなどに染まるしかない存在です。これが人の問題です。宗教が問題ではなくて、その宗教にのめり込む、それを裏返しますと、たましいが死んでいるからということなのです。これが人間の問題です。だから、精神の状態が正常に保たれない者が人間なのです。宗教にのめり込むから、偶像を拝むから、シャーマニズムに頼るから、イデオロギーに染まるから、精神的な状態が正常に保てないのです。だから、さまざまな問題が生じるしかありません。そのすべての問題の根っこの方に、人間はたましいが死んでいるということなのです。だから、神様に怒られることしかできないのです。悪魔が喜ばれることしかできないのです。自分では良い思いで、良しと思って、良かれと思ってやるかもしれませんが、基本的にたましいが死んで、神様に向かうことが出来ない状態であり、悪魔サタンの奴隷の状態なので、悪魔を喜ばせることしかできないのです。それが宗教です。私たちは今まで知らずに宗教にのめり込んで自分を磨いて何かを求めて頑張っていたかもしれませんが、それが悪魔を喜ばせることなのです。偶像を拝むことは、悪魔を喜ばせることなのです。シャーマニズムに頼ることは、悪魔を喜ばせることなのです。イデオロギーなどに染まることは、悪魔を喜ばせることなのです。それしかできません。

3) 神の御怒りを受ける子ら(エペソ 2:3) 霊、精神、肉体、生活、永遠、子孫にまで

だから神の御怒りを受ける子らとして生まれるのです。生まれながら私たちは滅びるしかない運命を抱えて生まれる、そういう者なのです。これが人間の問題です。神の怒りが、その人のたましい、霊に現れ、その人の精神に現れ、その人の肉体にも現れ、その人の人生の歩み、生活にも現れ、しかもその神の怒りが永遠にその人に留まるようになります。自分が死んでしまうと終わりという思いですが、死んだ後は救われる機会が消えてなくなり、永遠に神の怒りの下で生きるしかありません。しかも自分が死んだ後、残っている子孫たちにこの神の怒りが全部受け継がれることになります。これが人の問題です。人々はいま表に現れている問題だけに囚われて、それが問題だと思って悩みもがいていますが、それでは幸せな人生は期待できません。それで頑張っても頑張ってもうまくいかない場合、生まれなかった方がよかったというように溜息をし、極端な選択をする場合もあります。これが人の本当の問題だとわかったときに、なるほど、人間がいくらもがいて頑張っても解決できるものではないのだと。正確に申し上げると、人間の力は1mmも及ばない、そういう問題です。それが人間の本当の問題なのです。

4) 神様がキリストを十字架に引き渡され I ヨハネ 3:8、ヨハネ 14:6、ローマ 8:2、ローマ 10:13

だから、私たちのこの問題を一番ご存知の神様が、不思議な神様の愛をもってこの人間の問題を解決するためにキリストを十字架に引き渡されました。キリストは、私たちがもがいてどうにかするような問題であれば世に送られる理由などありません。全く解決できない、1mmも私たちの力が及ばない、そのような根本的な霊的な問題なので、神様がキリストを十字架に引き渡されました。そのキリストが、神の子が現れたのは悪魔のしわざを打ち壊すためです。悪魔のしわざを打ち壊すことがない限りは人の問題は解決できません。それを可能にする方がキリストです。それですべての問題が神様を離れたところから始まったので、わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければひとりとして父のもとに来ることはできません。イエス・キリストが神様と一緒にいる神様と出会う道となりました。そして、そのイエス・キリストが、このすべてののろいの運命、滅びと地獄の運命、罪ののろいを完璧に打ち砕いて解決なさいました。死と罪の原理から永遠に解放されることになりました。キリストが送られて、私たちにはどうにもならない、この人の本当の問題、根本からこの問題を完璧に解決されることになりました。解決なさいました。それで私たち人間に向かって、十字架の上ですべてを完了したと宣言されました。普通は生まれなかった方がよかったよというのが正常なのです。生きていて何が面白くて、何が幸せなのでしょう。面白いゲームが手に入れば面白いのでしょうか。宝くじに当たればハッピーなのでしょう。自分が希望していた就職先に就職できれば幸せなのでしょう。人生はそんなもんじゃありません。本当は普通に生きていけば生まれなかった方がよかったとため息をする、それが普通なのです。しかし、神様がキリストを十字架に引き渡されてすべての問題を解決なさって、私たちには何も要求しないで（何もできないから）誰でもこのキリストを信じる者は救われる、誰でも主の御名を呼ぶ者は救われる

と招いていらっしやいます。これを福音、良い知らせ、good news、ゴスペルというわけです。

5) 生まれなかった方がよかった理由 この福音を知らない、拒否し、迫害する(14:21)

なので、このキリストの福音の前で今まで私たちが生まれなかった方がよかったというしかなかったそのすべての理由が消されて去っていくようになります。それは理由になりません。どんなにつらい経験でも、どんなに理不尽なことでも、どんなに惨めな思いをしたとしても、それが生まれなかった方がよかったと言える理由にはなりません。もはやキリストが十字架ですべての問題を解決して、門を開いて誰でもキリストの御名を呼ぶ者は救われると、この喜びの知らせが与えられている以上、今まで生まれなかった方がよかったと思われたその根拠、理由などはもはや理由になりません。それががらりと変わって、むしろなるほど、この最高の価値、唯一のいのちである、希望であるキリストと出会うために許された材料だったんだと変わるのです。だからそういう意味で、生まれなかった方がよかったと言えるような人は存在しません。キリストがこの世に来られて、十字架の上ですべてを完了したと宣言した以上、皆さんがどのようなつらい思いをして、どれほど忘れられない心の傷になるしかなかった経験をしたとしても、それで惨めな思いをする理由にはなりません。キリストが来られた以上、キリストが基準なのです。皆さんが経験したその経験、それが基準ではありません。それを今日の礼拝を通してぜひ心にしっかりと留めていただきましょう。なので、キリストが世に来られた以上、生まれなかった方がよかったという理由は一つしかありません。その理由は今日、イエス様がイスカリオテ・ユダに向かっておっしゃいました。キリストが来られたのにこのキリストを知らないこと、このキリストを拒否すること、このキリストを迫害するような人生、そういう人間は生まれなかった方がよかったとおっしゃっているわけです。生まれてよかったのか、生まれなかった方がよかったのか、その基準はキリストなので。皆さんの考え方、見方を全部修正していただきたいと思います。

2. キリスト(福音)に出会ったので、生まれてきて良かった。

だから当然なこと、二番目です。神様の恵みによってこの絶対価値、唯一のいのち、光であるキリストの福音に出会った者であれば、どんな人間でも、どんな経験をしたとしても、「ああ、私は生まれてよかった」と宣言できます。宣言しなければなりません。

自分の中に、自分自身に向かって否定的なイメージというものは全部消さなければいけません。脳細胞にそのように刻印しないといけません。この約束のみことばを握って繰り返し告白してお祈りをしながら、脳細胞を切り替えていかないとはいけません。何が不満でしょうか。何がそんなに後悔なのでしょう。何がそんなに心を傷つけて残っていて、何がいまだに恨みつらみ、忘れられないものなのでしょう。ヨセフがそうだったでしょうか。ダビデはそうだったでしょうか。ダニエルはそうだったでしょうか。それは特別な人間の話ではありません。彼らはキリストのゆえに生まれてよかった。今までの過去のすべてのつらい経験、記憶、出来事は、生まれなかった方がよかったと言うしかなかった、それに対して感謝するようになります。それが悪魔、悪霊が逃げ去る一番の方法、力なのです。そうでないと、クリスチャンなのに考えの中に悪霊がずっと入り込んで、その人を操ることになります。悪霊は今もほかのいろいろなツールもあるでしょうけれども、一番の通路は考えの中に入り込むことです。考えが変わらないとずっと自分でも知らないうちに悪霊に操られることになります。クリスチャンなのになんと残念なのでしょう。親のせいだ。誰かが悪いからと思っていることは悪霊に今操られてるということなのです。キリストの福音に出会ったので、何がなんでも私は生まれてよかった者なのです。

1) ルカ 10:23

イエス様がルカ 10:23 でこのようにおっしゃっています。「それからイエスは、弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。「あなたがたが見ているものを見る目は幸いです」。キリストとしてこの世に来られたイエス様を見ていること。アブラハムもモーセもダビデもそのキリストを見ようとしたのですが見る事ができなかったのに、あなたがたは見ているのではないのか。私たちは復活して御座にいらっしゃるキリストと出会ったのではないのでしょうか。よかったわけです。どんなことがあったのでしょうか。私たちは生まれてよかった者なのです。キリストと出会ったのではないのでしょうか。これより幸いなことはありません。キリストと出会った、今現在の自分自身、自分の環境を見ると、なんでこうなのと思うよう

な者のままかもしれません。だまされないように。過去を振り返って、なんで私にはこんなみじめな理不尽なことばかりだったのかと、心の傷になるしかないものだらけかもしれません。だまされないように。それを通して最高絶対価値であるキリストと出会うことができました。

2) エペソ 1:4-選び エペソ 2:8-恵み マタイ 16:17-幸い

私たちがキリストと出会うように、私たちが生まれる前からエペソ 1:4 には、世界の基が置かれる前から、神様が私たちを選んでいらっしゃって、それでキリストと出会うようになりました。生まれてよかったのではないのでしょうか。皆さんは誰かに紹介されて、あるいは連れられてきて、イエス様を信じたと思うかもしれませんが、そのために世界の基が置かれる前から皆さんを選んでいらっしゃいました。そして、私たちでは不可能なので、頭では理解できない神様の不思議な愛による恵みによって恵みが注がれキリストと出会いました。イエス様を信じました。そんな簡単な話ではありません。神の恵みのゆえに信仰によって。だからイエス様は「主は生ける神の御子キリストです」と告白していたペテロに向かって「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです」と。それはペテロに向かってではありません。バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。優莉香、あなたは幸いです。あいり、あなたは幸いです。幹太、あなたを幸いです。このイエス様のことばが自分に向けられたということを信じて、ずっと脳裏に響いていないといけません。どんなことがあっても。それに負けないように騙されないように、惑わされないように。田中さん、あなたは幸いです。イエス様は「さん」とつけないと思いますけれども。どんな病を抱えているのでしょうか。それは皆さんが自分は幸いです。生まれてよかったと言うことを邪魔できるような理由にはなりません。イエス様が皆さんひとりひとりに、ペテロにおっしゃったように、あなたは幸いですとおっしゃっていることが聞こえてくるように。皆さんの中にあつた曇っていたもの、冷たく凍っていたものが全部溶け出して消えてなくなるように。イエス様のことばによって。皆さんのどうのこうのと一切関係ありません。

3) 過去と現在の再解釈

だから先ほども申し上げましたように、生まれてきてよかった。キリストによってキリストと出会ったのでとその宣言ができる者は、自分の過去と現在の解釈が変わります。もう一度言います。過去はどのような過去であろうが、キリストと出会うために許されたものなのです。だから、よかったんじゃないでしょうか。だからありがたいんじゃないでしょうか。母親が早く死んで私を捨てたのでありがたいわけです。生まれた時から障害を抱えて、あるいは親が離婚してしまって辛い思いして、それでよかった。ありがたい感謝ですよ。そう感謝を心から捧げ無い限りは悪霊が離れないですよ。その戦いなのです。何が引っかかるのでしょうか。キリストが十字架の上で全て完了したと宣言していらっしゃるのに、今現在どういう問題があるのでしょうか。本当にキリストと出会って幸いなものに間違いなければ、そのキリストを味わうために、そのキリストに更に釘を刺して、キリスト中毒になってもらうために許されたものなのです。それさえできれば皆さんは自然に、皆さんの周りから神の国のことがなされることを見て体験するようになります。頑張らなくても過去と今現在の解釈が変わり、日々、毎日の生活の中でぶつかるさまざまなことに対しての解釈が変わる。それを祈りと言います。自分で考えるのではなくて、自分で判断するのではなくて、評価しないで、神様、キリストは何とされているのでしょうか。何のためなのでしょうかと聞けばいいのです。

4) 生きるべき理由ある存在、絶対必要な存在

なので、生まれてきてよかったと言えるのは、今まで生まれなかった方がよかったと言っていたのに、生きる理由が明確になったからです。生きるべき理由があるようになり、つまりこの世界に絶対必要な存在になりました。生まれてきてよかったのです。食べて飲んで出してそれで死んだ。そういう人間ではなくて、明確な価値ある理由のために召されて生きることになったので、生まれてよかったのではないのでしょうか。I ペテロ 2:9 には、「しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです」。勉強することも食事することも結婚することも就職することも研究することも、すべてがこの理由のためなのです。就職や勉強が最高の価値ではありません。結婚が最高の価値ではありません。もしこの理由でなければ結婚しない方がいいかもしれません。この理由

も知らないまま就職できて、お金を稼いで、安定した生活ができた。それで何がよろしいのでしょうか。神様はそんなどこかの宗教の指導者やお釈迦様のような方ではありません。私たちが生まれて来てよかった。その明確な聖なる理由がわかって、その理由のゆえに就職もして結婚もすることを望んでいらっしゃるし、また用意していらっしゃいます。慌てないように。

5) 「生まれて来て良かった」と確信をもち

3. 祝福が刻印されるように集中出来る。

このように今までのすべてを全部取り壊して生まれて来てよかったという確信を持って、それが確かであればそれが刻印されるように。

いま残りの課題はそれが間違いないけれども刻印されていないので、ついついまた昔に戻って悪魔に騙されてしまうのです。なので、その確信を持って、倒れるときがあったとしても刻印の方に方向を合わせるようにしてください。

刻印されるようにするために集中するわけです。宗教的な行為で集中すれば何か結果が得られるだろうという宗教的な行為ではありません。このような確信を持ち、自分が価値ある存在、御座の祝福の主人公であることがわかったので、それが自分の考え、脳細胞に刻印されるようにする。それが課題です。それがミッションなのです。それが刻印されれば不思議なことが起きるようになります。それをタラップン伝道と言います。やることではありません。自分の状態が変わることなのです。自分の状態をしっかり省みるようにさまざまな問題が許されます。問題の前で今まで普通に良い信者だと思っていたのに、その問題の前で反応を示す自分を見れば違うなということを素直に確認して、霊的状态を改善することに第一のフォーカスを合わせて祈っていくようになります。それが変われば、皆さんの内側が変われば世界が変わります。これが聖書的タラップン伝道運動というものなのです。そのために生まれて来てよかったという確信を持つように。

1) カルバリ山-Only キリスト、終わり、十分

それでカルバリ山が皆さんのものであることを確認するように。カルバリ山というのは、本当にキリスト Only、動かないように釘を刺して、そのキリストひとりによって自分の人生すべての問題が終わって、キリストその方で私は充分ですということです。それが刻印されるように。

2) オリーブ山-御座の祝福と力、ミッション

オリーブ山というのは、そうになっている人にミッションが与えられることです。この暗闇の世界に神の国のことがなされ、御座の祝福がこれから具体的に現れるようになるのですが、その前にまずそのミッションを握っている信者のあなたの内側に神の国が現れるようになるよと。これが刻印されるように。御座で豊かに満たされる、自分なのに自分ではない、そういう人に変えられること、これがオリーブ山です。神のやぐらが立つわけです。そして、このような約束を握って祈るわけです。これが祈りの課題です。祈って、その祈りが集中です。カルバリ山の契約を信じて、オリーブ山の神の契約を信じて祈ることです。

3) マルコのタラップン-信じて祈り体験

そうすると使徒の働き2章に書いてあるマルコノタラップンでの体験が必ず現れるようになります。特別な人ではなくて、柳先生だけではなくて、信者には誰にでも約束されています。この集中の方に行くべきなのに、生まれたよかったという確信がないからずっと遠いのです。残念ながら。これに引っかかって、あれに引っかかって。今まで否定的に思っていたそのすべてにキリストの光が照らされて全部が変えられるように。皆さんの考えの中でよかった、ありがたい。それでよかった。感謝ですよ。小さいときに障害によって足が切られた、よかったと言えるようにならないと、ずっと悪霊に遊ばれるのです。親に捨てられた。それをそのまま抱えていると、ずっと悪霊に遊ばれるのです。よかったのです。感謝ではないのでしょうか。キリストが基準なのです。

結論です。自分自身の評価の基準をただキリストの福音だけにしましょう。それで自分に対する否定的

なイメージ、また自分自身に対する疑問等すべて退けて、それから使徒 1 : 7-8 を自分のものとして握って、邪魔されないで惑わされないで祈って、聖書の伝道運動、聖書にあるタラップンの体験の主人公になってその証人として用いられるようになっていきたいと願います。必ずそのようになります。なので逆に、あまりにもそのつらさと惨めさが大きかった人は、証しが大きくなります。感謝ではないでしょうか。何も問題ありません。考え方次第なのです。悪魔はそれを狙っています。いま戦争が起きている国もあります。韓国も大変なことになっています。そういう国に生まれて、生まれなかった方がよかったかもしれません。それも理由になりません。みな傷を抱えています。北朝鮮から脱北した人にこの間会いましたが、そういう傷を抱えています。生き残るために脱北した。麻薬にも手を出した。でもそれでキリストと出会いました。キリストと出会うことのために麻薬にも手を出して、過ちも犯して、命がけで脱北したり、そういうつらい経験すべてが今日のキリストと出会うために許されたプロセスなんだ。だから全部が感謝なんだ。違いますか。皆さんがそのように癒されれば、それが集中できて本当に刻印されれば約束します。不思議なことに今までになかった体験が始まります。神の国のことが具体的になされるようになります。なんと素晴らしいのでしょうか。努力しなくても。内側が変わっていないのに努力ばかりすると疲れちゃうのです。皆さんは生まれて来てよかった幸いな尊い神の子どもです。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちの頭の中にある間違っている考え方が、みことばによってキリストによって変えられるように聖霊様が働いてください。それでクリスチャンとして生まれて来てよかったと大胆に宣言して、それが祈りによって刻印され神の国のことが現れるその祝福の主人公になるようにひとりひとりを導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。